



京都議定書20周年記念座談会 若者たちの地球環境問題



京都議定書が採択されて20年となる2017年、『びっくり! エコ新聞』は、一年をかけてこの20年と、次の20年について考えていきたいと思っています。その出発点として、高校生・大学生たちが地球環境問題をどうとらえているか、率直な意見を出し合いました。



早川 優希 塔南高校2年

考えることが大事だ
人間が普通に生きていく程度なら、CO₂が増えても地球は対応できると思うんですけど、発電や工場などで大量に化石燃料を燃やして、現実にはCO₂が増えつつけているなら、なんとかしないといけない。



松本 仁 塔南高校2年

意識付けをどうするか
正直言って、砂漠化などはぼくたちだけでなんとかできる問題ではなく、資源の節約やエコやったりとか、自分たち一人ひとりでできること、小さいことしかわかりません。でも、小さいことを一人ひとりがすることによって地球環境問題はある程度改善できるんじゃないかと思っています。

環境問題も個人個人が取り組むためにはそれぞれが意識

することが大切なんだけど、ぼく自身も、まわりのみんなも、環境問題についてそれほど深く考えていない。環境問題への意識付けがぼくたち若い世代に定着してないんじゃないかなって思います。ぼくは将来教師をめざしています。授業をするうえで、まだ方法とかは自分のなかで考えていかなければならないと思うんですけど、自分が環境問題について教える側になったときに、どうやって子どもたちに意識付けをするのかっていうことを深く考えていきたい。これからは、環境問題に対する意識をいかに定着させるか、ということが大切になってくると思います。



于 再治 京都大学 工学部地球工学科3年生

話し合いを続けよう
簡単に言ったら、現在の生活の便利さを手放したら地球環境問題は解決できるかもしれないけど、もったいない生活を送ろうと思ったらCO₂を出し続けるしかない。



小川 由 京都大学 理学部生物科学専攻3年生

価値観を変える
私が小さいときは世界はだいたい安定してて平和だと思ってたんですけど、環境問題を初めて学んだときは、こんな危機にさらされているんだとけつこう衝撃でした。でも、どんな本を読んでも酸性雨や地球温暖化、砂漠化など知識の紹介で終わってしまっ



安藤 悠太 京都大学 大学院工学研究科修士2年生

新京都議定書を!
今頃が言っている地球環境問題って、昔ながらのエコだと思んですが、最近国連が提唱しているSDGs※では、貧困や飢餓、健康、教育など、かなり多くのファクターがからんでいると言われています。

SDGsって?
「持続可能な開発目標」の英語の頭文字で、2016年~2030年までの国際社会共通の目標。貧困の撲滅/健康・福祉/万人への質の高い教育、生涯学習など、幅広い17の目標を掲げています。
★中面の浅利先生の記事も参照!

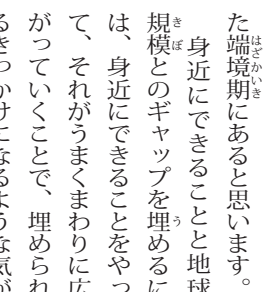
て思うこともあります。正直言うと、環境問題を勉強して、自分たちは悪くない、他の国のせいだとか、ぼくは常にそれを感じてきました。こちだって経済力があるんだっていうふうに思ってしまうんです。

今日の座談会では環境問題の解決に向けて、新しい技術の開発が必要だという意見が多かったと思うんですけど、私はそれには疑問を感じています。流れを変えるためには問題解決のために技術をどうとん後から付け足していくということより、生き方というところを、もっと根本の価値観を変えることのほうが先で、一番重要なことではないでしょうか。



西堀 功規 京都大学 工学部工業化学科3年生

身近から行動を広げる
かつては、CO₂が増えているから減らさなければならぬ、ごみが増えているから減らさなければならぬというようなわかりやすい目標があったと思うんですが、今はわかりやすい目標がない。だからそこをうまく整理していかないと次のステップが見えてこないという、混沌とした境界期にあると思います。



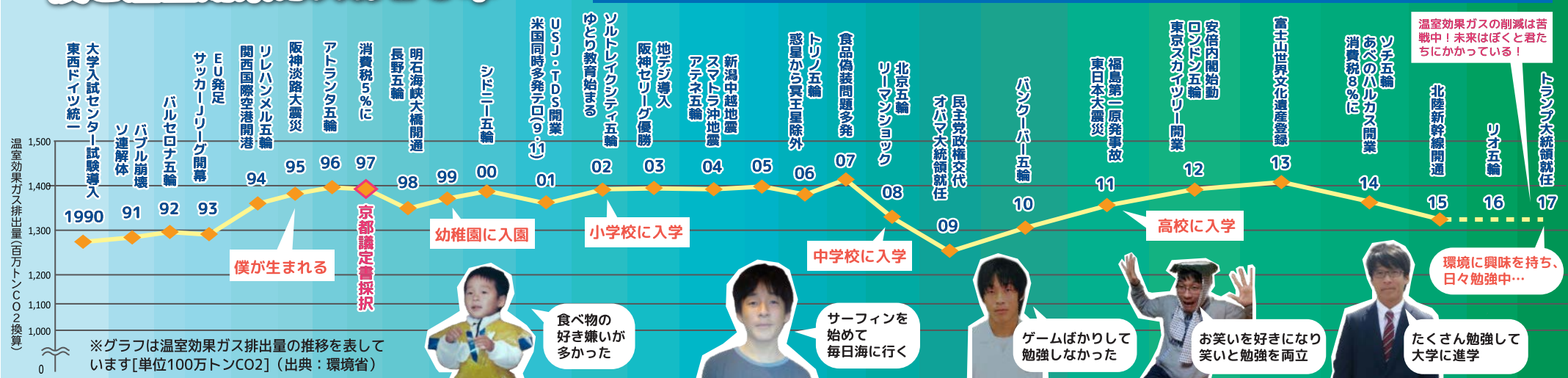
筒泉 宏樹 京都大学 農学部資源生物科学科1年生

新しい技術と発想で
地球環境問題が深刻化しているなか、石油をどんどん燃やしているし、森林伐採している人たちがいるのも事実です。でも一方で、今すぐお金につながるわけでもないのに、水素自動車や電気自動車など技術の開発に必死に取り組んでいる人も、昔よりは断然増えていると思う。

ぼくたちのように、世間が環境問題に関心をもっている時代しか知らない世代は、今までの人たちは違う発想を持っているんじゃないかと思うから、環境問題を解決する技術や対策を考えられる人を増やしていくことがベストだと考えています。

僕と温室効果ガスの20年

この20年あまり、いろいろな出来事がありました。環境問題では京都議定書が採択され、1990年を基準に排出量の削減がとくまれましたが、その推移はどうだったのでしょうか。僕(京都大学4年生 浅井優太郎)の人生や世の中の出来事とあわせてご覧ください。



大学でプロと「夏休みの宿題」を極める1日

開催日: 2017年8月8日(火) 11:00~15:00

※時間が前後することがありますので、余裕をもってご参加ください。



夏休みの自由研究に困ったら、中面を見てください。「さらに極めたい」や「実際にプロの先生方から習ってみたい」と思ったら、ぜひこの企画にもご参加ください。浅利先生、石川先生、田中先生らが、リレー形式で直接指導して下さいます。また、普段は入れない大学の施設に入ったり、学食を食べたりの体験も!

- 対象** 小学校3年生~大学生 ※参加後は記事やレポート、ポスターなどの提出が前提となります。
※小学生の方は保護者1名まで同行可能です。同行される場合は保護者氏名もお書き添えください。
- 人数** 40名程度(先着順)
- 集合** 時間▶11:00 場所▶京都大学時計台1F入り口付近(解散場所も同じ)
- 参加費** 無料(集合から解散までの入場・体験料、保険、昼食代金を含む)
- 応募締切** 7月31日(月) 参加確定者には後日詳細をお送りします。
- 応募方法** 【1】お名前 【2】学校 【3】学年 【4】住所 【5】電話番号 【6】メールアドレス(できればPCの) 【7】参加を希望する理由を書いて、**往復ハガキ**で裏面宛先までお申込みください。